

## 第8回 高校生ものづくりコンテスト山形県大会

### 電気工事部門

山形県立新庄神室産業高等学校

事務局 菅 智幸

#### 1. はじめに

当部門は山形市漆山の高齢・障害・求職者雇用支援機構山形職業訓練支援センターを会場に6月16日（土）、17（日）の2日間に渡ってコンテストを実施した。今大会には、昨年度より1校多い8校からの参加申込があった。また、1校より複数の参加申込があり、多くの生徒に出場機会を与えるため、各校上限2名と定め、最終出場人数として15名で大会を実施した。



図1 (開会式の様子)

#### 2. 競技

本大会では、基本的に全国大会の課題を採用した。全国大会では、施工条件（アウトレットボックスの位置）は当日発表となっていたが、作業の難易度を考慮し、全国要項の施工図と同様の配置とした。

また、今までの県大会では、金属管加工については、曲げ作業のみであったが、今年度の課題内容を考慮し、切断及び曲げ作業をするとした。



図2 (競技の様子)

金属管加工（アウトレットボックス間）があったものの、15名の参加選手のうち、時間内に作業を終了させることができたのが12名、誤配線がなく完成させることができたのが11名であった。

表1 大会結果 <3位まで入賞>

順位	学校名 (学年 学科)	氏名
1	山形工業高等学校 3年電子システム科	阿部 兼久
2	長井工業高等学校 3年電子システム科	富樫 修
3	鶴岡工業高等学校 3年電気電子システム科	遠藤 雅樹

#### 3. おわりに

年々課題の難易度が上がっているものの、県大会の技術的なレベルも高くなってきており、特に上位者の差は僅差で、高いレベルでの競り合いであった。一方、通し配線によるボックス内の接続箇所を最小にするという施工条件を満たしている選手が1名しかおらず、複線図の読み間違い等もあった。

東北大会に出場した山形工業高校の阿部兼久君は誤結線、作業時間のオーバーがあり7位という結果だった。東北大会で上位になるためには、基本的な技術はもちろんだが、時間に余裕を持って作業できるように作業台・治具の工夫が必要であると感じた。

最後に、今年度も高齢・障害・求職者雇用支援機構山形職業訓練支援センター様には、会場と作業板をお借りし、山形県電気工事組合様から高額な材料提供をいただいた。また、山形県電気工事高等職業訓練校様にも材料の提供と、校長の藤田様には審査と貴重な助言をいただいた。また、今年度から東北電化工業株式会社の品質管理部長の宮本様をはじめ4名の方より審査および助言をいただいた。この場を借りて深く感謝申し上げます。大会の運営に対して多くの方々にご支援・ご協力をいただきました。重ねて感謝申し上げます。